



『有難う』は『奇跡』

～3学期始業式校長講話より 抜粋～

3学期の始業式、そして新年のスタートにあたり、私からは「感謝の気持ちをもって一日一日をたいせつにしてほしい」というお話をします。

では、最初に、皆さんにクイズを出します。「反対語のクイズです」第1問 「大きい」の反対の言葉は何でしょう？「小さい」ですね。第2問 「長い」の反対の言葉は何でしょう？「短い」ですね。

それでは、今度は難しいですよ。感謝するときに言う言葉「ありがとう」の反対の言葉は何でしょう？どうです。難しいですね。

では、答えを言う前に「ありがとう」を漢字で書いてみます。

「有り難う」と書きます。「有」は、「あること・起こること」という意味です。「毎日あること・起こること」です。「難」この漢字は低学年の皆さんには、まだわかりにくいですね。「難し（かたし）」と読みます。難しいとも読みます。つまり「有難う」とは、「あること・起こることがかたし。あること・起こることがむずかしい、めったにない、起こらない」ということです。「ほとんどないことが起こる」、つまり「奇跡」ということです。

「有り難う」は、「奇跡」と考えると、「奇跡」の反対は「当然」とか「当たり前」です。だから、「有難し」という意味の「ありがとう」の反対は、「当然」とか「当たり前」です。

ところで、私もそうですが皆さんは、毎日起こること（出来事）を当たり前だと思って、生活していませんか。「ごはんを食べること」「歩いたり走ったりすること」「友だちと楽しく過ごすこと」など、たくさんあります。でも、ここで少し考えてください。

「おうちのかたが働いてお金を稼いでくれなかったら、ごはんを作ってくれなかったら」「足を骨折してしまったら」「のどの病気で声が出なくなってしまうたら」などと考えると、「ごはんを食べること」「歩いたり走ったりすること」「友だちと楽しく過ごすこと」は、当たり前ではなくなってしまいます。

これらのこと、もっと言えば、私たちが毎日、健康で普通に生活できることは、「当たり前」のことではなく、「奇跡」なのです。奇跡のことが毎日続いているのです。「奇跡」、つまり先程言いました「有り難し」です。

もうわかりますね。「ごはんを食べること」「歩いたり走ったりすること」「友だちと楽しく過ごすこと」など、毎日普通に、当たり前のように生活できることは、「有ること難し」「ありがとう」なんです。

私が今日お話ししたいことは、「私たちは毎日の生活を『当たり前』のように過ごしていますが、その一つ一つを『有り難し』と考え、『ありがとう』という感謝の気持ちをもって生活しましょう」ということです。

さて、今日から3学期が始まります。3学期は、登校日数が45日間という大変短い学校生活になります。6年生は「卒業」に向けての、そして他の学年は「進級」に向けての、確かな終わりが近づいてきます。「終わりという始まり」の学期です。

どうか、2学期に話した「やさしい子」をよりパワーアップして目指すとともに、「ありがとう」という言葉がクラス中、学校中にあふれ、感謝の気持ちをもって毎日生活し、友だちと仲良くし、より素晴らしいクラス、芝沢小学校になってほしいと思います。

最後に、今年にちなんで、なぞなぞを一問。

<もんだい> 「へビがはずかしがってしまう、ドラえもんのカラクターは？」

答えは、そう 「ジャイアン」です。（「蛇（じゃ）いやあん だから」ですね。

まだまだ、感染症の流行にも気をつけなければいけない季節が続きますが、感染対策を忘れずに、全校のみんな、インフルエンザやコロナに気をつけて、元気に健康で3学期も登校してください。



『代表児童の発表より』